

考古学基礎講座 横穴式石室について

西田 和浩

【講座の概要】

1. はじめに

古墳の側面に入口を設けた石室のことを横穴式石室と呼ぶ。石室は遺体を安置する玄室とそれにつながる羨道せんどうからなる。竪穴式石室にくらべ、追葬が容易な点が大きな特徴である。

古墳時代は、前期（3世紀中頃～4世紀後半）、中期（4世紀末～5世紀末）、後期（6世紀～7世紀末）に区分される。横穴式石室は古墳時代後期に主流となった埋葬施設である。前期・中期には竪穴式石室が主流となっていた。

2. 横穴式石室の特徴と各部の名称

横穴式石室は「九州型」と「畿内型」に大きく分けられる。「九州型」は4世紀末頃から福岡・佐賀県沿岸部を中心に前方後円墳の埋葬施設として築造され、その後5世紀には九州各地へ広がっていく。普及する過程で「肥後型（熊本県）」や「地下式横穴（宮崎県）」などに変化し、地域色がみられるようになる。九州外へもわずかに拡散するが、肥後型石室の構造をよく残しているのは岡山市の千足古墳である。

「畿内型」は5世紀終わり頃に出現するが6世紀はじめに前方後円墳に採用されて、その後各地へ普及していく。

3. 吉備の横穴式石室

吉備では5世紀前半に肥後型石室をもつ千足古墳が築かれる。その後、本格的に横穴式石室が導入されるのは6世紀以降である。緑山6号墳など小規模なものが散見され、形状はばらばらであるが、こうもり塚古墳の出現によって共通した構造をもつようになる。こうもり塚古墳は全長100mの前方後円墳であり、当時の吉備では最大規模を誇る。こうもり塚古墳の出現以降、吉備の横穴式石室は使用石材の大型化が進み、奥壁は1石、側壁は2～3段積で構成される。

大型の石室には石棺が安置されることがある。石棺の石材には、竜山石（兵庫県高砂市）・浪形石（岡山県井原市）が利用される。浪形石は吉備独自の石棺であり大型の横穴式石室に採用された。

4. おわりに

古墳時代中期までは、竪穴式石室を中心としながら、様々な埋葬施設が築かれている。しかし、6世紀に入ると古墳の埋葬施設は全国的に横穴式石室に画一化していく。また、横穴式石室は首長墳のみならず、小規模なものも多数築かれており、社会の各層が共通した墓制や死生観を持つようになったことをあらわしている。

【参考文献】

大阪府立近つ飛鳥博物館 2007『横穴式石室誕生 黄泉国の成立』（大阪府立近つ飛鳥博物館図録 45）

土生田純之 1992「横穴系の埋葬施設」『古墳時代の研究 第7巻 古墳Ⅰ 墳丘と内部構造』 雄山閣

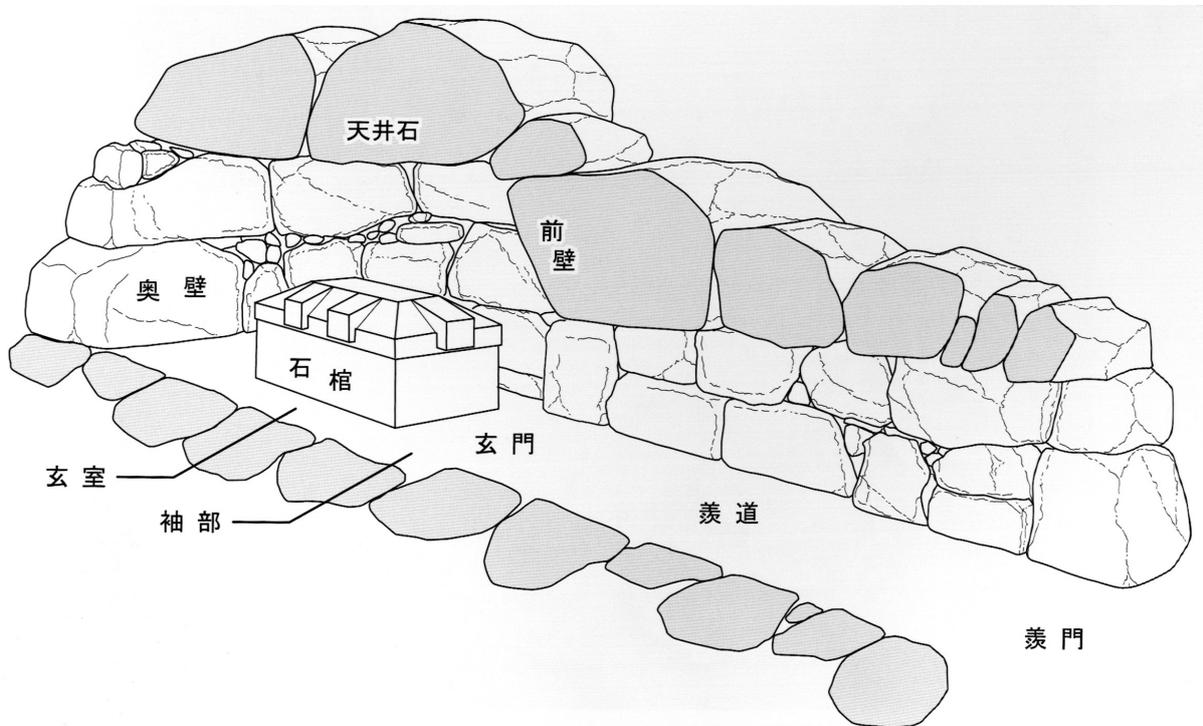
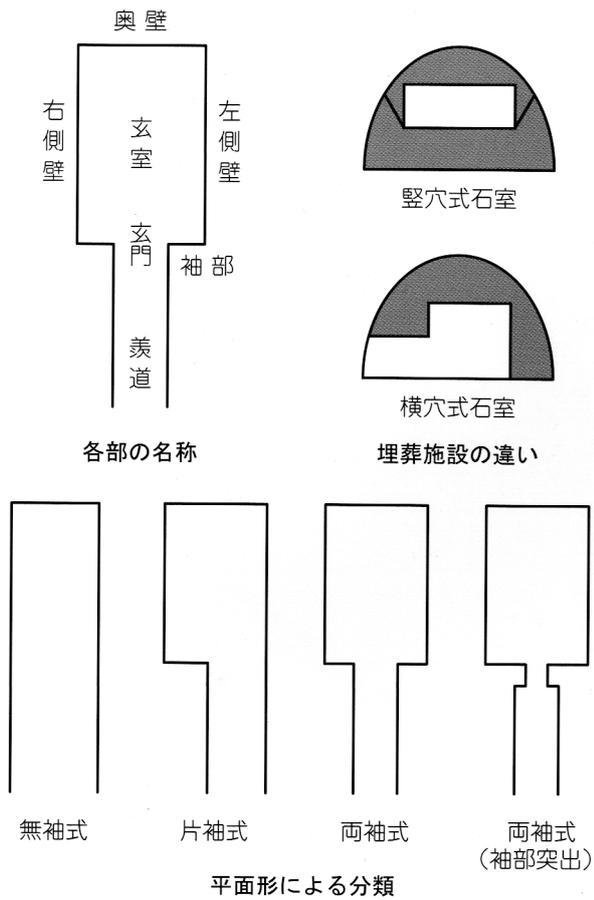
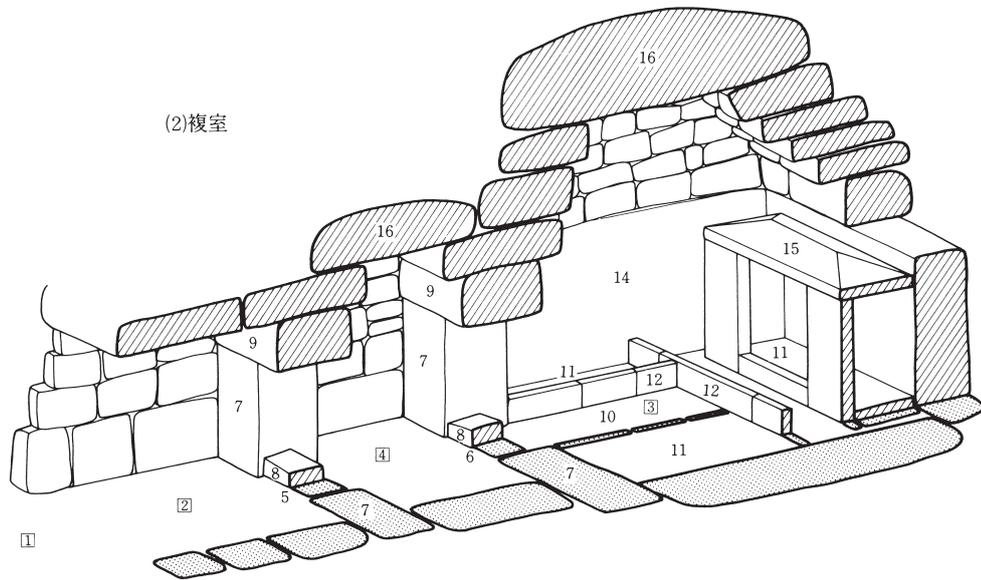
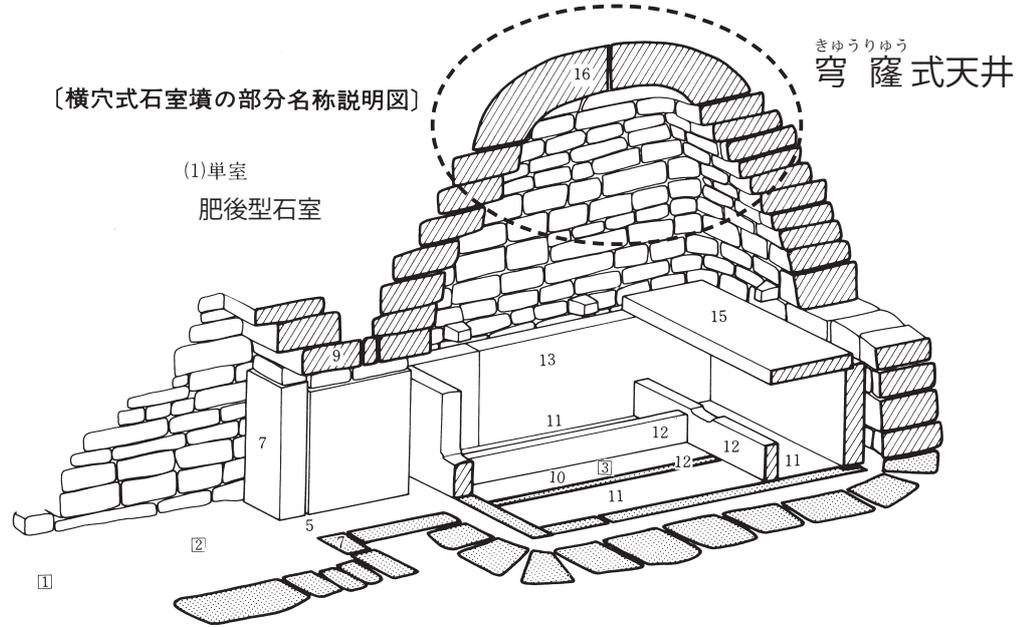


図1 「畿内型」石室の構造と部分名称

〔横穴式石室墳の部分名称説明図〕



- | | | | |
|--------|-----------------------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1. 前庭部 | 古墳入口前（羨道前）の広場。 | 8. 框石 | 羨門や玄門の床に敷きわたした敷居状の石。 |
| 2. 羨道 | 古墳の外部から玄室に通じる道。 | 9. 楣石 | 羨門や玄門の上に水平にわたした石。 |
| 3. 玄室 | 古墳の主体となる屍体を安置する室。複室墳（室が2室ある古墳）の場合、奥室・後室・主室とよぶこともある。 | 10. 通路 | 玄室や前室の中央部を貫く道。 |
| 4. 前室 | 複室墳（室が2室ある古墳）の場合、入口側にある室。 | 11. 屍床 | 屍体を収める所。 |
| 5. 羨門 | 前室や玄室の入口。 | 12. 仕切石 | 区切石ともよぶ。用途を区切る境の石。 |
| 6. 玄門 | 玄室の入口。第二羨門ともよぶ。 | 13. 石障 | 囲み石ともよぶ。玄室の4壁に接して立てめぐらした板石。 |
| 7. 袖石 | 羨門や玄門の両脇にある石。 | 14. 腰石 | 玄室壁面の最下段の巨石。 |
| | | 15. 石屋形 | 玄室の奥屍床が家形に造られたもの。 |
| | | 16. 天井石 | 玄室や前室の最上部に寄せられた石。 |

図2 「九州型」石室の構造と部分名称

	畿内型	九州型
出現時期	5世紀末	4世紀末
分布範囲	列島各地（北海道・沖縄除く）	ほぼ九州島内（一部本州に分布）
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・平面形が長方形で袖部分を持つ ・次第に巨大な石材を使用 ・玄室は平らな天井 ・各地の墓制に強い影響 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接遺体を安置する（屍床をもつ） ・多様な石室（肥後型石室・地下式横穴など） ・石室内に装飾（壁画・彫刻など）がみられる
代表例	<ul style="list-style-type: none"> ・藤の森古墳（大阪府藤井寺市） ・市尾墓山古墳（奈良県高取町） ・こうもり塚古墳（総社市） ・見瀬丸山古墳（奈良県橿原市） ・牧野古墳（奈良県広陵町） 	<ul style="list-style-type: none"> ・谷口古墳（佐賀県唐津市） ・鋤崎古墳（福岡市） ・千足古墳（岡山市） ・井寺古墳（熊本市） ・王塚古墳（福岡県桂川町）

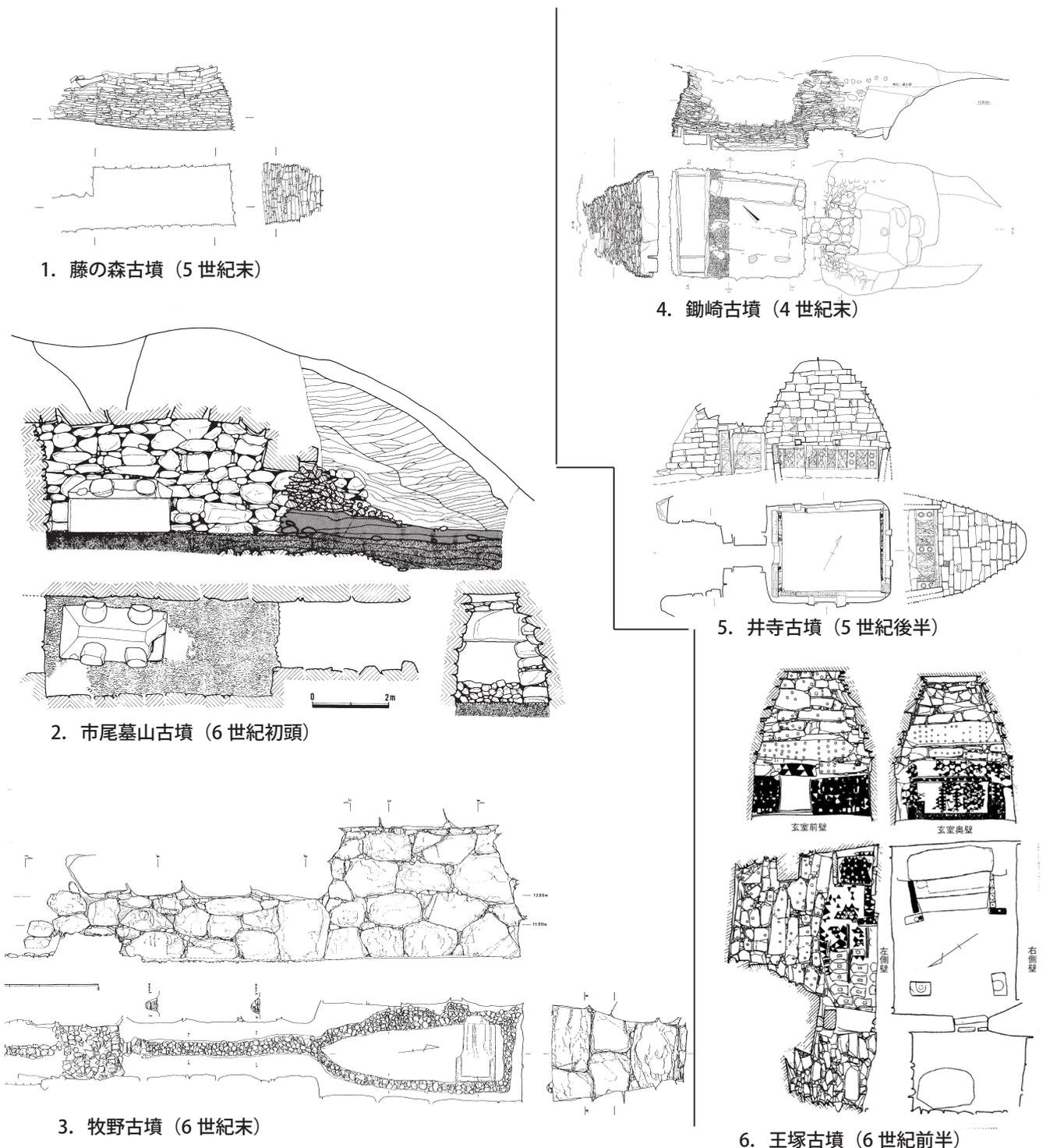
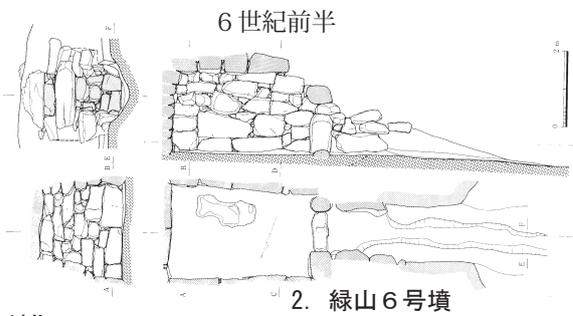
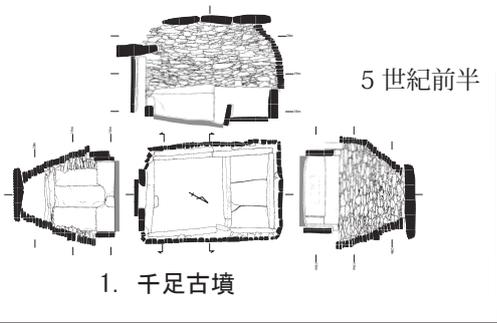
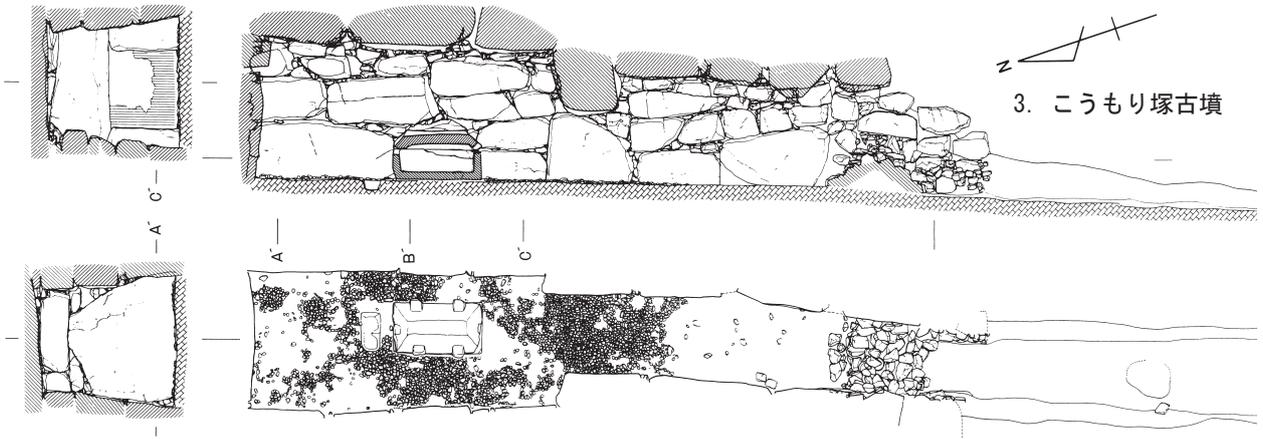


図3 「畿内型」と「九州型」横穴式石室 (S=1/150 ※ 3のみ 1/200)

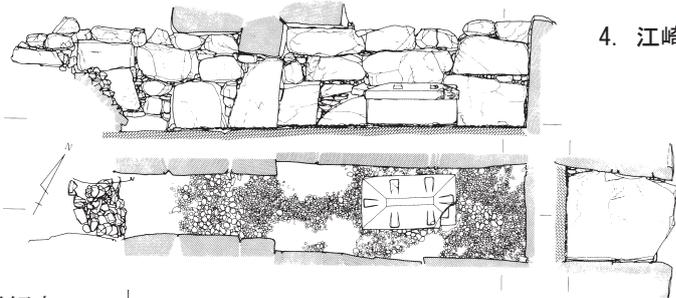


奥壁・側壁の大型化

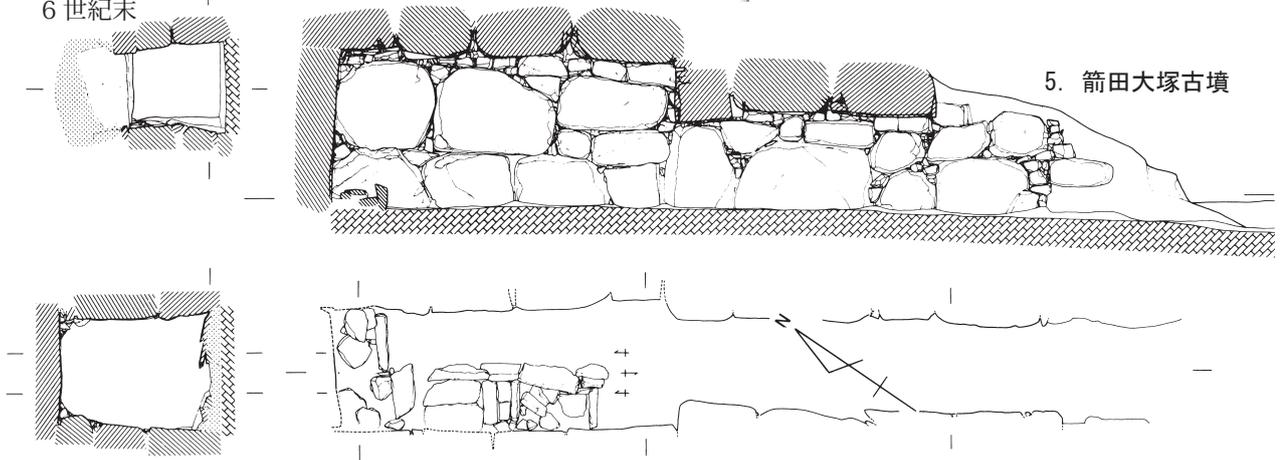
6世紀後半



4. 江崎古墳



6世紀末



7世紀初頭

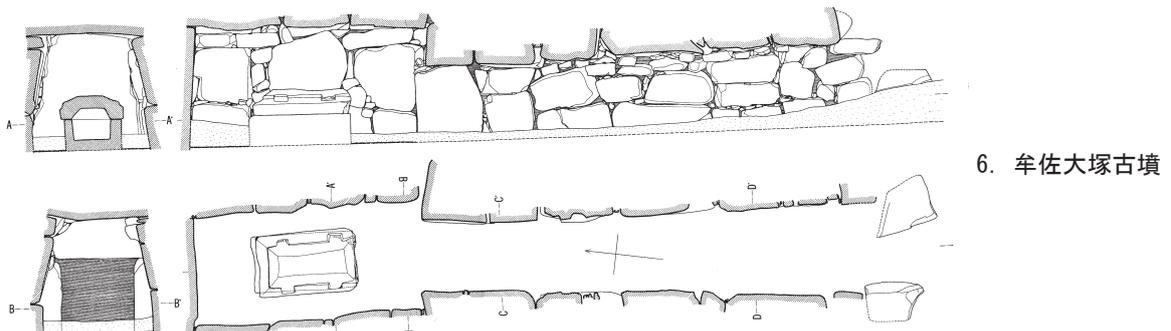


図4 吉備南部における横穴式石室の変遷 (1/2000)

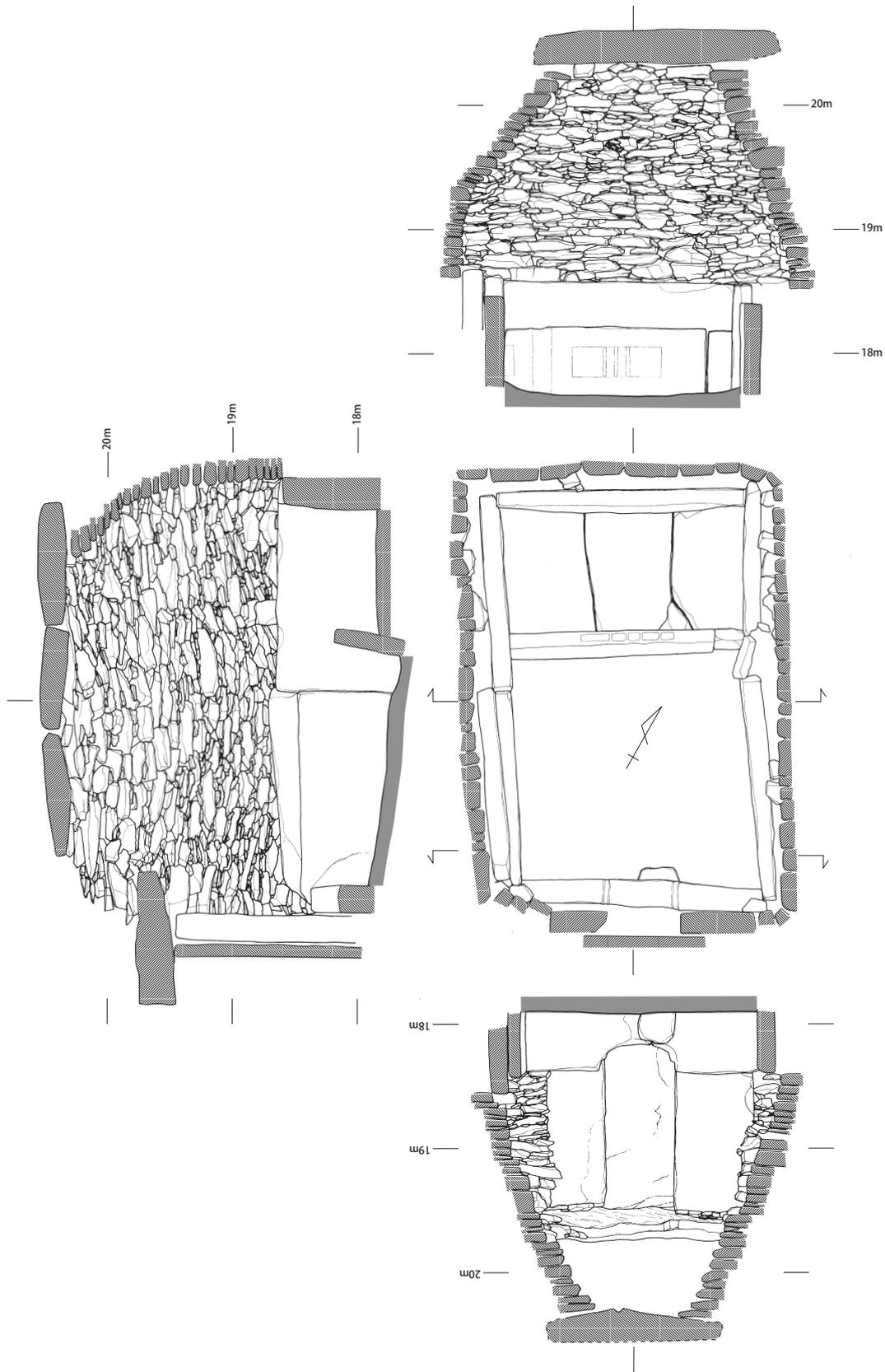


図5 千足古墳石室実測図 (1/50)

図出典

図1・図3-1：大阪府立近つ飛鳥博物館 2007『横穴式石室誕生 黄泉国の成立』（大阪府立近つ飛鳥博物館図録 45）、図2・図3-5：熊本県教育委員会 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』、図3-2：宮原晋一 1988「市尾墓山古墳の再検討」『橿原考古学研究所論集』第9 吉川弘文館、図3-3：広陵町教育員会 1987『牧野古墳』、図3-4：福岡市教育委員会 2002『鋤崎古墳』、図3-6：柳沢一男 2004『描かれた黄泉の世界・王塚古墳』新泉社、図4-1・図5：岡山市教育委員会 2012『岡山市埋蔵文化財センター一年報 11』、図4-2 緑山古墳群調査団 1987『緑山古墳群』総社市文化振興財団、図4-3・5・6：岡山県 1986『岡山県史考古資料編』